



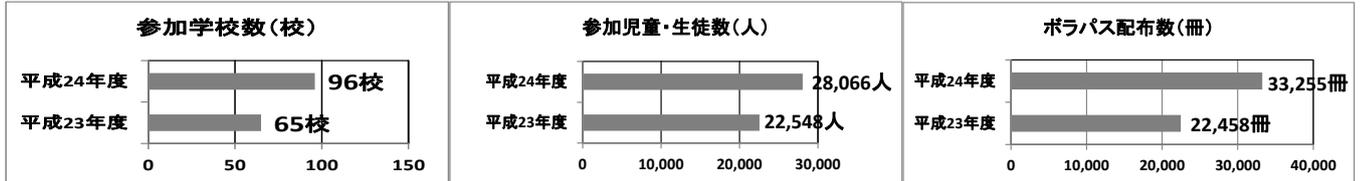
平成24年度事業報告

平成24年度事業のご報告

1. ふれあいボランティアパスポート事業

◇ふれあいボランティアパスポート活用事業

児童・生徒のボランティア活動を普及するために、そのきっかけと継続につながる「ふれあいボランティアパスポート」(以下ボラパスという)の活用を小中高等学校等に積極的に呼びかけました。その結果、ふれあいボラパス活用を希望する参加学校数、参加児童・生徒数、配布数ともに大幅に増加しました。



◇ふれあいボランティア感想文募集(ボラパス参加校96校が対象。)を行いました。

「ふれあいボランティア活動を通じての私の成長」をテーマに、小学校385作品、中学校59作品、高等学校36作品、合計480作品の応募をいただきました。以下の選考委員の方々から選好いただいた結果、17人の児童・生徒の作品が選ばれました。どの作品も気づきと成長が感じられる素晴らしい作品でした。

〔選考委員長〕公益財団法人さわやか福祉財団理事長 堀田力氏

〔選考委員〕早稲田大学文学学術院教授(さわやか青少年センター理事) 増山均氏、NPO法人放課後NPOアフタースクール代表理事 平岩国泰氏、日本教育新聞社編集局局長 矢吹正徳氏
受賞者は、以下の方々です。

【ふれあいボランティア活動大賞】千葉県栄町立布鎌小学校5年 白石汐里さん

【特別賞】(被災県の学校のボランティア活動)

福島県棚倉町立棚倉小学校6年 益子愛海さん

【小学生賞(7人)】千葉県栄町立竜角寺台小学校1年 大口結衣子さん、東京都国分寺市立第七小学校1年 岡田悠汰さん、東京都杉並区立松庵小学校2年 田中凜さん、福島県棚倉町立棚倉小学校3年 門馬瑠花さん、宮城県仙台市立七北田小学校4年 永野晃靖さん、東京都小平市立学園東小学校5年 米山みのりさん、岐阜県関市立金竜小学校6年 藤村美憂さん

【中学生賞(5人)】佐賀県嬉野市立嬉野中学校1年 岩津優治さん、千葉県栄町立栄東中学校1年 竹内詠美さん、東京都目黒区立第八中学校2年 田治光将さん、岐阜県関市立小金田中学校3年 伊藤悠さん、千葉県栄町立栄東中学校3年 竹内梨乃さん

【高校生賞(3人)】東京都立練馬高等学校1年 岡田彩華さん、神奈川県七里ガ浜高等学校2年 許冴恵さん、神奈川県七里ガ浜高等学校2年 松田夏歩さん

受賞した皆さんには、表彰状と楯、記念品(缶バッジ)、その他の応募いただいた児童・生徒の皆さんには記念品を差し上げました。受賞された皆さんのボランティア活動感想文は感想文集にまとめて、当センターホームページに掲載していますので、是非、お読みください。



千葉県栄町では、教育長、社会福祉協議会会長から表彰状を手渡ししていただきました。(右端)白石 汐里さん

◇ふれあいボランティアパスポート新成人アンケート調査(2013年1月13日)

ボランティア活動普及のためのボラパス活用事業は、さわやか福祉財団が平成12年度に始めてからさわやか青少年センターが引き継いだ平成24年度まで含めて13年間継続しています。当時からボラパスに取り組んでいる小・中学校でその当時ボランティア活動に取り組んで卒業した児童・生徒が今は大人になっています。そこで、平成15年度と平成16年度からボラパスに取り組んでいた佐賀県神埼市教育委員会、福島県棚倉町教育委員会にご協力いただき、共に成人式を開催した平成25年1月13日(土)、成人式会場に集まった新成人に対して、ボランティア活動についてのアンケート調査を実施しました。その結果、両市町合わせて52名の新成人から回答をもらうことができました。その結果、**52名の新成人のうち約6割(59.6%)は何らかのボランティア活動に取り組んでいる**という結果がでました。その他の結果についても抜粋してご紹介します。

【調査結果抜粋】※あくまでも52名に対する調査結果です。

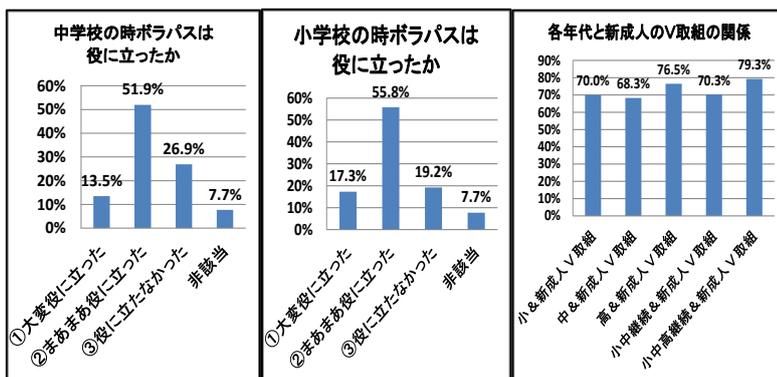
■ボラパスは、役に立つツールであると思われる。

小学校時代 73.1%、中学校時代 65.4%が役に立ったと回答した。

■小中高等学校と段階的、継続的にボランティア活動をした児童、生徒は、新成人になってもボランティア活動をする割合が約7割から8割と非常に高い。

小学校時代にボランティア活動に取り組んでいたと回答した新成人の70.0%、中学校時代にボランティア活動に取り組んでいたと回答した新成人の68.3%が現在ボランティア活動に取り組んでいると回答。

小中学校通じてボランティア活動を継続したという新成人の70.3%がボランティア活動に取り組み、小中高等学校通じてボランティア活動を継続したという新成人の79.3%がボランティア活動に取り組んでいる。



これらの結果をまとめて、都道府県政令市、中核市、特例市等150の教育委員会に発送しました。新成人アンケート調査結果の詳細は、当センターホームページをご覧ください。

◇「子どものボランティア活動活性化のための研究会」設立（2013年3月27日）平成26年度までの事業。

この研究会の目的は、子どもの人間力（自助力と共助力）を育むにおいて、いかにボランティア活動が有効であるかを客観的データによって検証し、まとめ、ボランティア活動を指導する大人にボランティア活動を子どもたちに勧める意義について理解の促進を図ることです。また、ボランティア活動の活性化の方策を考えます。

（研究主任）早稲田大学文学学術院教授（さわやか青少年センター理事）増山 均先生

（研究スタッフ）早稲田大学文学学術院大学院増山均教授研究室研究生2名

さわやか青少年センター 有馬 正史（計4名）

2. スクールボランティアサミット事業

◇スクールボランティアサミット 2012 開催

（2012年8月11日）

スクールボランティアサミットは、学校での奉仕体験活動・ボランティア体験学習の充実、レベルアップを図ることを目的とした活動です。

当センターと東京都奉仕研究会（東京都教職員研修センターから認定された研究会です）

参加校・参加団体	
1	高等学校 19校
2	中学校 2校
3	小学校 1校
4	特別支援学校 2校
5	大学 2校
6	文部科学省 1
7	教育委員会 2
(学校関係団体) 29	
8	財団 1
9	NPO法人 3
10	個人ボランティア 12
(参加人数53人)	

分科会、及び全体会が活発な意見交換が行われました。また、さわやか福祉財団の堀田理事長の講演には参加者全員が聞き入っていました。参加者からは実践的で充実した内容であったと評価をいただきました。 当センターホームページをご覧ください。



3. 青少年地域ボランティアサークル普及事業

この事業は、青少年の地域ボランティアサークルづくりを支援して、青少年が地域社会の一員として社会参加する機会を提供することを目的としています。

◇青少年地域ボランティアサークルづくり支援。

東日本大震災の被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の高校生を募集し、岩手県から1名、宮城県から2名の高校1年生を山形県天童市（県立青年の家）で毎年開催されるY Y V（山形県ヤングボランティア）フェスティバル（2012年10月13、14日開催）に招待しました。山形県内の地域ボランティアサークルの高校生たちや地域の方々と交流して、青少年地域ボランティアサークルづくりを学んでもらいました。



（左から）岩手県の北田那那さん、宮城県の菅祐成君、日高慶之君

参加者全員集合！充実した活動に3人も感無量の様子でした。

◇青少年地域ボランティアサークル指導者会議開催（2012年12月15日）

指導者会議は、当センター理事で日本女子大学教授の田中雅文教授を座長に、文部科学省社会教育課からも1名ご参加をいただき、北は北海道、南は鹿児島まで、全国から10の青少年地域ボランティアサークルの指導者にご参加をいただいて、サークルの運営、指導方法等について意見交換を行いました。各サークルの活動をもとに協議した内容を成果として、行政に対するサークル支援のためのアピール文にまとめ、文部科学省、都道府県政令市、中核市、特例市の150の教育行政に届けました。当センターホームページをご覧ください。



青少年地域ボランティアサークル普及のためのアピール

1. 青少年のボランティア活動に対する社会全体の理解の促進

第1に、青少年のボランティア活動に対する社会全体、とりわけ学校・家庭・地域の理解の促進を提案します。そのためには、社会活動に参加するための権利を子どもが有するとともに、子どもも社会を変えるパートナーであるという子ども観（基本認識）の醸成が不可欠です。

2. 青少年が地域におけるボランティア活動に参加しやすい環境づくり

第2に、青少年が地域におけるボランティア活動に参加しやすい環境づくりを提案します。その基本的な条件として、学業・部活などで多忙な高校生の生活条件の改善、異年齢とのつながりを含む仲間づくりの支援、居場所や休める時間の確保、地域や多世代・他校の人たちと交流できる活動の提供などを進めることを強く求めます。

3. 青少年地域ボランティアサークルの運営方法の向上

第3に、青少年ボランティアサークルの運営方法の向上を促すことを提案します。具体的には、後継者の確保を含む参加者募集の方法、学校と地域機関・団体（行政、社会福祉協議会を含む）との関係を中心とする学社連携の仕組み、地域内外での指導者・団体のネットワーク、活動資金の確保（含確保のためのノウハウ）などを特に推進すべきです。

4. 青少年ボランティアに対する支援の工夫

第4に、青少年ボランティアに対する支援の工夫を提案します。とりわけ指導者の心構えが重要であり、青少年への信頼、主体性の尊重、褒めることと諭すこと、大人自身も楽しむことなどを身につける必要があります。そのほか、青少年の自主性の育て方、創造的な活動、エンパワーメントの方法、感動体験の充実などが不可欠です。

5. 指導者の養成及び行政のサポート体制の構築

第5に、指導者の養成及び支援体制の構築を提案します。現在の地域における青少年地域ボランティアサークル（団体）の指導者は、教育委員会、社会福祉協議会、子ども会に所属の人たちが多いですが、個人で指導者として孤軍奮闘している人たちもいます。しかし、活動の責任を指導者個人が負うため、人数は少なく、若い世代の参入が必ずしも活発ではありません。これからの地域社会においては、有意な地域の人材の活用が不可欠です。そこで、地域人材による指導者養成及び責任を個人に負わせない公的な支援体制の構築を提案します。



私たちは、2012年12月15日、東京に集まり、青少年地域ボランティアサークル指導者会議を開催した。青少年地域ボランティアサークルの普及について、協議を行い、「青少年地域ボランティアサークル全国ネットワーク」を設立した。そして、協議の内容をアピール文としてまとめた。

青少年地域ボランティアサークル」活動を普及するために（前文）

青少年地域ボランティアサークル全国ネットワーク

2012年12月15日

青少年は、「家庭」・「学校」・「塾」・「仮想空間の世界」のピラミッド（三角錐）の中にいるだけでは、心豊かな未来社会を創る『人間力』のある「社会人」にはなりません。

青少年の成長には、「地域社会」が必要です。

地域社会には、多様で心豊かな「人々」がいます。

地域社会には、多様な「社会環境」や「自然環境」があります。

そして、彼らやそれらは青少年に「冒険」と「体験（経験）」、「発見」と「感動」を提供してくれます。

豊かな「感性」と豊かな「心」を育ててくれます。

すなわち、地域社会には青少年が自ら『人間力』を育むことができる豊かな土壌があるのです。

しかし、

「地域社会」の未来の希望であるはずの、青少年、特に青年（高校生）の、『人間力』を育むための居場所が「地域社会」には多くありません。そういう中であって、

地域社会に拠点を持って活動する「青少年地域ボランティアサークル」は、青少年が自ら『人間力』を育むボランティア活動の場を提供しており、最適な青少年の居場所の1つである、と私たちは確信しています。よって、私たちはここに、

青少年が地域で自ら『人間力』を育む「青少年地域ボランティアサークル」を普及するために、以下の提案（アピール）をいたします。

4. 幼児期の人間力を育てるための研究事業

幼児期の共助力の萌芽について3年間の調査研究事業として研究会を設立しました。この研究会の目的は、幼児期に共助力がどのように育まれるのかを、親子、サポートする人たちなどを含めた他者との関わりや育むための方法等について調査、研究し、その成果を社会に提供しようという事業です。

〔研究代表〕松永 愛子氏（目白大学講師）

〔研究者〕 齋藤 史夫氏（埼玉純真短期大学特任講師）、
有馬 正史（さわやか青少年センター理事長）

【協力団体】ゆったりーの（住民が運営する子育て支援施設：東京都新宿区）

今年の1月から2回、研究者3名で「ゆったりーの」の広場において、幼児の遊びを1日中観察する方法で年度末に第1回レポートをまとめました。近日、ホームページでご紹介する予定です。



「ゆったりーの」

5. 広報事業

さわやか青少年センターのホームページを作成し、当センターについての紹介や上述の事業の活動の紹介等を行いました。また、社会教育専門誌「月刊社会教育」や教育関係新聞「日本教育新聞」、「教育新聞」等に当センターについての紹介や活動内容などを掲載いただきました。また、学校での講演活動、授業等も行いました。

是非、ホームページをご覧ください。（URL：<http://www.ssc-npo.or.jp>）